

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2773201484		
法人名	けいはん医療生活協同組合		
事業所名	グループホームきんだ		
所在地	大阪府守口市金田町2丁目25番15号		
自己評価作成日	令和5年 3月 4日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiqyosyoCd=2773201484-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiqyosyoCd=2773201484-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人ぱ・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和5年3月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

共用型デイサービスや同じ建物内の一般デイサービスを利用しながら待機して頂いている方もあり、通いながれた所へ混乱なく入居して頂くことが出来ます。法人の掲げる理念「だれ一人取り残さない街づくり」「ずっと笑顔でこの街で」グループホームきんだの理念「笑顔で楽しくこの街で」を念頭に、家族・組合員・地域住民との交流や、一日3名枠の共用型デイサービスの利用者と一緒に家事をしたりすることで刺激を受けながら過ごして頂いています。協力医療機関と連携を図りながら入居者の身体状況や生活を職員全員で観察し、気付きをご家族と共有しながら「入居者主体」のケアを心掛けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

施設内併設の共用型デイサービス利用者と、日中活動を共にすることで、日々地域の外部の人との接点もあり、利用者間相互で、お互いに助け合ったり、一緒に家事をされるなど、生活の励みになる生活の流れが形成されています。利用者の今までの暮らしの延長、普通の生活、普段通りの生活を心がけ、地域密着型に特化した法人理念を踏まえ、職員と利用者が、家族のように接する環境作りを心がけられており、誕生日には職員が手作りのケーキと、バースデーカードを提供することが定番になっています。利用者の意向を尊重した生活リズムと居場所を大切にされており、集団を強要するのではなく、利用者自身が過ごしやすい場所でやりたいことができるよう配慮されています。7名定員のため、すぐに気付きに繋がられ、個々の利用者に寄り添える支援を心がけられています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念</b> 2773201484					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の壁に手作りの理念を貼り見れるようにしている。	今までの自宅での暮らしの延長、普通の生活、普段通りの生活、が心がけられており、地域密着型に特化した法人理念が意識されています。施設として独自の理念も設定されており、利用者と共に手作りで作られたものが施設内に掲示されています。会議の際にも、理念について触れられており、職員は理念を踏まえ、利用者と家族のように接する事ができるように努められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週に一度の地域の人も参加する事業所ラジオ体操にスタッフと利用者が参加し、地域のだんじり祭りの観覧や、地域の公園の清掃に参加し顔なじみが増えている。	毎週金曜日に事業所で体操が行われており、毎回地域の方々の参加もあります。従前は、地域ボランティアによる施設行事やカフェ等が行われていましたが、コロナ禍の制限下において、開催が困難な状況です。制限緩和に伴い、実施方法・実施内容を検討しながら取り組みの再開を計画されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はけいはん医療生協の守口市のホールでの作品展に参加し地域の人に認知症になってもこの街で暮らし続けられることを発信した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	この2年間実際に会議が出来た回数は少なかったが、電話や報告で状況はお伝えしている。	コロナ禍の制限下において、市の通知に従い書面による代替開催となっています。電話による説明や意見聴取が行われていました。従前は、地域の方々や家族等の参加もあり、地域の交流の場として和気藹々とした雰囲気、意見交換が行われていました。制限緩和に伴い、対面での開催拡充を予定されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染のこと生活保護のことなど連携を図っている。くすのき広域連合の巡回指導や行政からのメールでの発信で情報共有をしている。	地域包括支援センターとは、必要に応じた対応に加え、地域の行事や施設行事に関する協力可能な関係が形成されています。広域連合巡回相談により、運営上の意見や情報が共有されています。利用者の生活上の必要に応じた、市との連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を作り会議での共有をしている。建物の二階にあるためテンキーでの管理をしているが、入居者が希望する時にはスタッフが同行している。	2ヶ月毎に、適正化委員会の開催があり、委員会の内容は職員に共有されています。職員に対しては、身体的拘束に限らず、口頭による行動抑制に繋がる言葉がけに留意し、意識した支援の提供に努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会や学習会、プリント学習を実施している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での学習会や動画学習を行い、同じ建物内のケアプランセンターの責任者等に気兼ねなく相談できる環境にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	加算取得や介護保険料の改定時にはご家族と連絡を取り説明の上同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、日本医療福祉生活協同組合連合会のアンケートを実施しその結果をご家族や利用者にお返ししている。スタッフには結果の内容を分析し接遇委員が中心となってスタッフへの共有を行っている。	運営推進会議や面会時の意見聴取が、コロナ禍の制限下において、困難な状況です。従前より、定期的な家族アンケートに実施されており、意見や意向の把握に繋がっています。従前は、家族からの意見を踏まえ、施設での行事などの情報提供の拡充、入浴支援の見直し、選挙投票支援等の反映事例がありました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や日々の申し送り、半年に一回の面談などで意見を聞き質の向上に努めている。	年2回管理者と職員の面談が実施されています。毎月行われるスタッフ会議でも、職員の意見や意向の聴取が行われています。会議時以外でも申し送りノートを活用し、職員の意向を把握する機会が確保されています。職員の意見を基に送迎体制の改善に繋がられた事例が確認できました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づいて就業環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、二年目研修など法人独自の取り組みに加え、年に一度の力量評価や接遇チェックを行っている。法人内の動画研修や事例検討会に参加している。外部の研修(感染・認知症)にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	守口市グループホーム連絡会に参加し情報共有や空き情報の発信などを行っている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談時にケアマネ、管理者がアセスメントシートを活用しご本人の生活歴・習慣・好み、困りごと、得意なことに加え要望やご家族の希望などを考慮し不安なくサービスを受けていただけるようコミュニケーションをとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	共用型デイサービス利用者が入居を希望されるケースが多く、不安なことなどは逐一ご相談いただけるようにデイサービス利用時からの関係性構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して話ししていただける雰囲気づくりに配慮し、ご家族の困りごとを考慮しながらニーズをくみ取り最適なサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできること出来ないことを把握し、出来ることはしていただき必要時には一緒に実施している。出来ることをしていただくことで居場所や役割を持って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時には近況を報告させていただき、写真付きのお手紙の送付などを通し信頼関係を構築しつながりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やなじみのあった方からの訪問の受け入れをしたり、お電話を取り次いだり、お手紙をポストに投函する支援をしている。	コロナ禍の制限下において、面会等を従前通り行う事は困難であるため、手紙や電話での交流の維持拡充に努められています。時間制限を設けた家族との面会も感染症対策に留意しながら取り組まれています。交友関係のあった方々とのインターネットを活用したオンライン面会も実施されています。制限緩和に伴い、可能な範囲から交流や外出の拡充に取り組まれる予定です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性の把握や個々の生活習慣を理解し、座席の配慮をしたり、小さなもめごととは刺激ととらえ大きなトラブルにならないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までは実施していない。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で聞き取ることがあればスタッフ間で共有しています。モニタリングから担当者会議をスケジュールに反映し支援している。	日々の会話時や、入浴時の雑談を、利用者の意向や思いの把握の場と意識した支援に取り組まれ、傾聴に努められています。コロナ禍の制限下において、利用者の意向通りの外出ができない中、思いや意向の実現に向けた可能な取り組みができるように努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや日々のケアの中で聞き取ったことは記録に残しスタッフ間で共有しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の個人記録・バイタルチェック表・排泄水分チェック表を記録し申し送りで共有と把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングをスタッフとケアマネが行い、サービス担当者会議で話し合いケアプランに反映している。入居者に変化があったときは毎日の申し送りでケアの変更や統一に努めている。	職員と計画作成担当者による、毎月のモニタリングが実施されています。半年に1回、サービス担当者会議が開催され、全職員が会議の内容を共有されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・バイタルチェック表・排泄水分チェック表に記載し申し送りで共有把握し、記録物はケアの実践や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス(食事時間、場所・排泄時間・入浴時間等)に捉われず、その方にあったタイミングでサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんや組合員のボランティアさんに来ていただいたりしている(コロナ禍で控えている)町内のだんじり巡行を事業所のガレージから見学したり、ガレージでの地域の方とのラジオ体操に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>隔週で主治医の往診を受けている。往診当日の朝のバイタルをあらかじめFAXしスムーズな受診を心がけています。緊急時は訪問介護と24時間連携を図り対応している。</p>	<p>かかりつけ医は、利用者の意向で決定されています。施設協力医療機関からは、2週間に一度の訪問診療がおこなれ、必要に応じた訪問看護の支援も行われています。専門医が必要な場合は、協力医療機関の紹介で、適切な受診に繋がられています。緊急時は24時間対応で連携が図られています。2週間に一度の訪問歯科と歯科衛生士による口腔ケア指導が行われています。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期的訪問以外にも24時間連絡が付き適切な指示をいただくことが出来る。看護師から主治医に報告・連絡・相談をし適切な医療が受けられるよう努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはご家族と主治医と相談しながら対応している。退院時はご家族・ソーシャルワーカーと相談しながら対応している。必要時は退院前のカンファレンスに出席することもある。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した時、終末期の対応についてご意向を伺っている。その内容は絶対ではなく変更可能であることもお伝えしている。</p>	<p>重度化、終末期についての指針があり、入所時利用者に説明され同意が得られています。急変時緊急時の延命意向等も確認されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>毎年法人の守口事業部でAEDの学習会を実施している。毎年違うスタッフに参加してもらい、参加者からスタッフへ報告共有している。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回避難訓練を実施している。秋に火災訓練実施済み。災害の訓練については3月下旬に実施予定。</p>	<p>食料や消耗品は、2日分以上を目処に、備蓄品として用意されています。水防法に基づく洪水避難確保計画が整備されています。机上訓練を含めた多彩な災害の訓練を実施していく予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルに沿って、安心の言葉かけを実践できるように目線を合わせた言葉かけを心がけている。	利用者個々の背景や生活に応じた、声がけの仕方を意識して支援が行われています。利用者個々で異なる、望まれる配慮にあわせ、尊厳を損なったり、羞恥心を抱かせるようなことに繋がらないよう配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご本人が選択できるような言葉かけを心がけ、入居者主体のケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日のスケジュールは決まっているが、毎朝の町会の時にその日の家事当番の確認をしてあり、したくない時は理由を確認しそれでもいいとしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には可能な限り一緒に着替えの準備をし、定期的な訪問理美容の手配や清潔保持の支援を実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗浄、食器拭きなどスタッフと一緒にしたり、入居者の誕生日にはスタッフと一緒にケーキの飾りつけをしたりしている。	季節食、行事食では、利用者が季節を感じられるよう、職員が手作りで提供するなどの取組が行われています。利用者が積極的に食事の用意や片付けに参加されています。毎月、おやつ作りを中心に、利用者が最初から作ったり、職員と共に作ったりする機会があり、作りながらの楽しみを得る機会となっています。共用型デイサービス利用者と共に取り組む事で、利用者のやりがいと生活の変化を得る事に繋がられています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表に記録することで把握している。トロミをつけたり、ミキサーにかけたり個々の嚥下状態に合わせている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを実践しています。状態に合わせて口腔ケアウエット		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表への記録で排泄の間隔や排便の状況を確認している。日中はできるだけトイレでの排泄を心がけ訴えがけない方、出来ない方については排泄のサインを見逃さないように心がけている。	日中は、オムツ利用を控え、水分摂取量への配慮等、利用者が自立した排泄を継続できるように努められています。夜間でも、可能な範囲で自立排泄が行える支援に努められています。同性介助に努められ、利用者のプライバシーに配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほぼ薬でのコントロールとなっていますが、水分摂取やプルーンやヨーグルトの提供など工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後から実施しているが、その時の状況や希望に合わせて柔軟に対応している。	予定浴が基本ですが、無理強いすることなく、利用者の意向や体調を踏まえた、柔軟な対応に努められています。利用者の羞恥心に配慮し、入浴に対する抵抗が生じないように努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯後は1時間おきの巡視を行い、起きている方には温かい飲み物を提供し入眠を促したりしている。日中はご自身でベッドに横になる方もありご自身で訴えることが空出来ない方はその時の傾眠状態や様子を見ながら体力温存の為ベッドに誘導したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイリングいつでも確認できるようにしている。薬が変更になったときには申し送りでスタッフ間で共有している。日々の内服薬は薬ケースを使用して前日にスタッフが配薬しダブルチェックを行い服薬して頂いている。服薬介助時も服薬介助者と別のスタッフでダブルチェックをした後服薬していただいている。バイタル表と薬袋に服薬時間と介助者の記名をし服薬完了のチェックをしている。主治医・看護師・薬局と連携を測り変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お酒が好きな方は主治医と相談しノンアルコールビールやノンアルコールの日本酒をお風呂上りや夕食時に飲んでいただいている。洗濯物を干したり、食器を拭くなどの家事もスタッフと会話を持ちながらしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの感染対策で外出は控えたりしているが、スタッフと一緒に近隣の散髪屋さんに行ったり、衣類の買い物に出かけたりしている。ご家族の冠婚葬祭等も連絡があれば準備をお手伝いしご家族と出掛けていただいている。	コロナ禍の制限下において、従前通りの外出は困難な状況ですが、近隣など感染症対策の確保ができる範囲での、外出機会創出に努められています。制限下となる前には、選挙投票支援や宝くじ購入など、利用者意向に沿った外出支援に取り組まれていました。制限緩和に伴い、可能な範囲から外出の拡充を再開される予定です。	コロナ禍の制限下において、制限されていた、外食・外出等の支援を制限緩和に伴い、再開拡充されていくことに期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入費たい物がある時は可能な限り一緒に買い物に出かけて購入している。ご本人が訴えることが出来ない場合も必要物品についてご家族と相談し購入させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	はがきの投函を頼まれたときにはスタッフで対応することもあります。電話も掛けたいと希望があれば対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝のフロア内の掃除機掛けは入居者がしてくださっている。環境整備や消毒はこまめにスタッフで行っている。入居者の撮影した写真を掲示したり、入居者とスタッフで毎月のカレンダーや壁面飾りを作成し掲示している。	毎月利用者と共に、手作りのカレンダーが作成されており、季節や刻の流れを意識できる機会にも繋がられています。利用者の作品は、作品展等にも供出されており、地域交流にも活用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと廊下の奥にソファがあり座ってゆっくり過ごしたり、座って本を読んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での暮らしを大切にご自宅から家具やお仏壇の持ち込みもしていただいている。	原則として、利用者の持ち込み品に制限はなく、法人理念、施設理念に沿った、今までの自宅での暮らしの延長、普通の生活、普段通りの生活の再現に繋がる、居室づくりに努められています。利用者は、思いのある品や装飾品、趣味の品等を持ち込まれています。利用者の生活能力・運動能力を踏まえた、過ごしやすい空間作り、スペース確保に努められています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖歩行や、歩行器を使っての歩行もできるようテーブルやいすの配置を工夫している。		